活用現場レポート

株式会社 鳥鹿養鶏園

三重県津市　養鶏

FFCテクノロジーが導入された初めての事業者である鳥鹿養鶏園様。
その歴史は古く、初代 伊藤鹿次郎が養鶏を始めてから140年以上。1989年にFFCを導入され、27年間ずっと活用されています。長年にわたって安全と安心を第一に卵を生産されており、2012年には三重県の安心食材として認定を受けられました。今回は高品質で美味しい卵を作り続けられている鳥鹿養鶏園様のFFCの活用方法と活用後の変化についてご紹介いたします。

経営者のお話

代表取締役 五代目鹿次郎　伊藤 正徳 様（左）
六代目　伊藤 徳仁 様（右）

30年近く前、父が赤塚会長に出会い、FFCテクノロジーを知りました。導入した時には、私も父と一緒に働いていましたので、FFCテクノロジー活用後の変化をすぐ感じました。一番大きかったのは臭いが激減したことです。養鶏分野は、「臭い・汚い」という悪いイメージがつきものです。私が小さい頃には、当社の前を通る車に「おーい！臭いぞー！」と言われたこともありました。今では、看板を出すまで養鶏をしていることすら気づかれないくらい臭いが少なくなりました。この悪いイメージを変えられたというのは本当に大きなことで、今周辺は住宅街ですが、おかげさまでクレームもありません。この場所で養鶏ができることが奇跡的です。また、悪いイメージが変わるということは事業を継承していくうえでもとても大事なことだと思います。これからも六代目と一緒に安全安心かつ美味しい卵をお届けしていきたいと考えています。

FFC活用方法

使う水はすべてFFCウォーター

鶏舎の飲水のタンクにFFCセラミックスを設置
（1989年～）

①ヒナの生育期(生後3日目～2週目の間)

飲水と練り餌（ヒナの離乳食）にはパイロゲン500倍希釈水を使用。呼吸からも吸収させるため、パイロゲン20倍希釈水を毎日噴霧します。
ヒナの時にしっかりと活用することで、健康な体の基礎作りをされています。

②産卵期

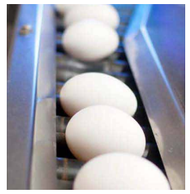
卵の味は、エサが決め手！

FFCウォーターと添加物の一切ない自家配合飼料を与えます。1964年から、エサにこだわり最高の卵作りを追求し続けています。

ポイント
夏場の酷暑時期と冬場のインフルエンザが懸念される時期には、鶏にパイロゲン500倍希釈水を飲水として与えます。
また鶏舎に1000倍希釈水を噴霧します。

③洗浄・パック詰め

集卵後にFFCウォーターで洗浄し、パック詰めして完成。
「臭みがなく、コクがあり、一度食べたら他の卵を食べられない！」という嬉しいお声をいただいています！地元のスーパーや地域の飲食店、「高野尾花街道 朝津味」のフードコートでも「パイエッグ®」が使われています！



元気モリモリ朝ごはんセット

【大西畜産】
ボンレスハム100g

【奥野食品】
たぬぶ～のひきわり納豆（2コセット）

【下津醤油】
たままんま（150ml1本）

【鳥鹿養鶏園】
パイエッグ 赤卵（10コ入）
白卵 温泉卵（5コ入／だし付）

三重県FFC活用製品のコラボレーション！

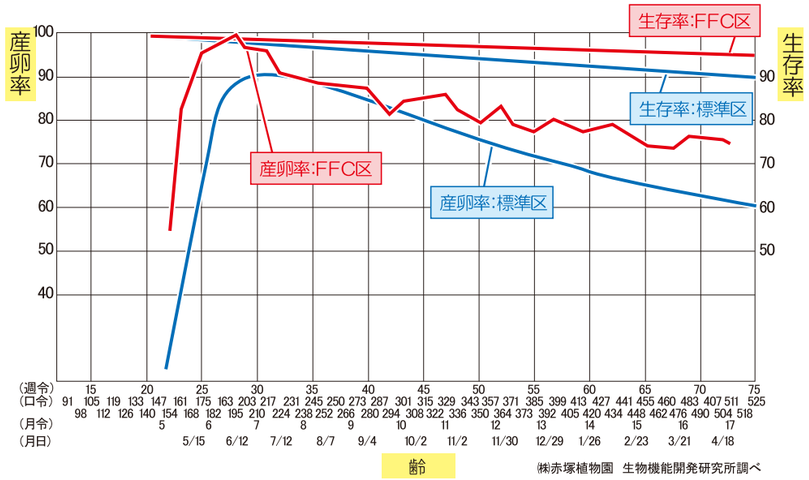
三重県をPRするべく、FFCを活用している4社で「元気もりもり朝ごはんセット」を作りました！朝食が健康作りの第一歩という想いから作られました。2,800円（税・送料込）

鳥鹿養鶏園様HPにて販売中！

FFC活用後の変化

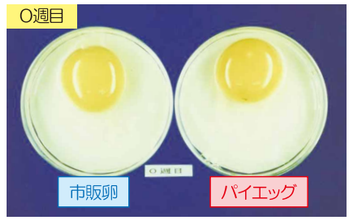
生存率と産卵率が向上！

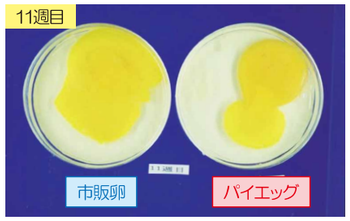
ヒナの時からFFCテクノロジーをしっかりと活用することで、健康な鶏になり、その結果、生存率と産卵率が向上したと考えられます。また、ヒナが元気に育つので、義務づけられたワクチン以外に予防の為の抗生物質を一切使う必要がなくなりました。



卵質と新鮮保持力の向上！

市販の卵が5週目で黄身が割れたのに対し、パイエッグは11週目でようやく割れました。驚きの鮮度保持力に、この試験を実施した方も「この卵はいったいなんなんだ！」と驚かれていました。





上質な鶏糞堆肥ができるように！

鳥鹿養鶏園様の発酵鶏糞「パイグリーン」を使うと、「連作障害が抑えられた。大きくて立派な野菜が採れた。」と大好評！
現在、地域の耕畜連携だけでなく、アフリカのザンビアの土地を耕す事業にも協力されています。FFCウォーターを含んだパイグリーンでアフリカの大地が耕される日が楽しみですね！

こんなことも…

愛犬のコロちゃんに元気がない時、パイロゲンを薄めて飲ませているそうです。人間の年で90歳位になり、生命の危機もありましたが、毛艶も良く、今でも元気に走り回っています。